

## 総合計画改定に係る市民意見聴取等について

平成 29 年 11 月 24 日

総合政策部 総合戦略課

### 〈意見聴取の目的〉

第 2 次総合計画 基本構想で位置づけた『めざすまちの形』である「ネットワーク型コンパクトタウン」を推進する上で、基本計画の主要施策「文教ガーデンシティ事業」の中止に伴い、新たなまちづくりの方向性や施策の検討を行なう上で多面的な意見聴取を行い、第 2 次総合計画基本構想・前期基本計画の一部改定案の参考とし、反映させることを目的とする。

### ①市民アンケート

#### ○ 対象者

20 歳以上の市民 1,200 人（住民基本台帳より無作為抽出）

#### ○ 調査方法

郵送による調査票の配布及び回収

#### ○ 回収数

対象者数	有効回収数	有効回収率
1,200 人	420 通	35.0%

#### ○ スケジュール等

調査期間：H29 年 6 月 16 日(金)【調査票発送日】～ 7 月 5 日(水)【回答締切日】

#### ○ 調査項目

- ・伊豆市の生活環境について（今後の居留意向や市への愛着度等）
- ・人口問題について（人口減少に対する不安度、人口減少対策について等）
- ・市政やまちづくりへの市民参加等について  
（産業力強化・子育て支援・各地域の賑わい創出に向けた取組、まちづくりへの市民参加を進めていくための対策等）
- ・伊豆市の施策について（施策の満足度・重要度）

○ 調査結果

回収データについて、属性別(年代・居住地)のクロス集計等による分析を実施

1.人口問題について

年代別にみると、20・30 歳代の『住み続けたい』割合は約 5 割となっている。

地区別では中伊豆地区が 74.5%と最も高い一方で、土肥地区は 63%と最も低い。

全体的にみて、「ずっと住み続けたい」と「しばらく住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』は約 7 割となっている。

2.人口減少対策について

人口減少対策について、「産業の振興、雇用の創出」(約 7 割)、「妊娠・出産、子育てへの支援」(約 6 割)、「市外からの移住や定住の促進」(約 5 割)、「教育環境の充実と郷土愛の醸成」(約 3 割)、「農山村の魅力づくりや地域の賑わいづくり」(約 3 割)などの対策が必要と考えられている。

年代別にみると、20・30 歳代からの「妊娠・出産、子育てへの支援」が 66.3%と突出して多く、40 歳代以上は「産業の振興、雇用の創出」が多くなっている。

3.産業力を強化する取り組みについて

全体をみると、「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」が 54.0%と最も多く、次いで「観光交流を中心とした地域産業の振興」となっている。

年代別にみると、20・30 歳代は「観光交流を中心とした地域産業の振興」、40 歳代以上は「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」が重要だと考えている。

4.子育て支援策として重要な施策について

全体をみると、「出産・小児医療体制の充実」が 38.8%と最も多く、次いで「こども医療費の充実」、「保育サービスの拡大」となっている。

年代別にみると、20・30 歳代は「出産・小児医療体制の充実」や「子どもがのびのび遊べる環境整備」を重要だと考えており、40・50 歳代は「こども医療費の充実」、60 歳以上は「地域全体で子育てを行う環境づくり」と年代別のニーズの違いが見られる。

5.各地区の賑わいを創出するために必要な機能について

全体をみると、「雇用を生み出す場」が 65.7%と最も多く、次いで「商店（スーパー・コンビニなど）や飲食店」となっている。

20・30 歳代は「子育て世代が交流できる場所」のニーズが高く、40 歳代以上は「雇用を生み出す場」のニーズが高い。また、60 歳代以上は「多世代が交流できる場所」や「住民の憩いの場、居場所づくり」などのニーズが高い。

## 6. 市政やまちづくりにおいて市民の参加を進めていくための対策について

全体をみると、「若い世代などの幅広い人たちへの参加の呼びかけ」が40.0%と最も多く、次いで「活動の担い手の育成・配置」となっている。

年代別にみると、20・30歳代からは「市民が参加しやすい団体やサークル等の育成」、40歳代以上は「活動の担い手の育成・配置」のニーズが高い。

## 7. 施策に対する満足度・重要度について [年齢別]

### [20・30歳代の特徴]

機能的で魅力あるネットワーク型コンパクトタウンの形成に向けた「④道路・公共交通の整備」、産業力の強化に向けた「⑮地域産業を担う人材の育成」、「⑯企業誘致・留置の推進」、少子化対策と次代を担う「⑳教育環境の充実」、「㉑地域全体で子どもたちを育てる環境整備」が重要だと考えられている。

### [40・50歳代の特徴]

機能的で魅力あるネットワーク型コンパクトタウンの形成に向けた「④道路・公共交通の整備」、産業力の強化全般、個性的な市民文化の創造と情報発信に向けた「㉒まちのブランド化の推進」、「㉓戦略的なシティプロモーション」、少子化対策と次代を担う人材育成全般が重要だと考えられている。

### [60歳代以上の特徴]

機能的で魅力あるネットワーク型コンパクトタウンの形成に向けた「④道路・公共交通の整備」、産業力の強化に向けた「⑮地域産業を担う人材の育成」、「⑯企業誘致・留置の推進」、その他の「㉔透明で効率的な行政運営」が重要だと考えられている。

## 8. 施策に対する満足度・重要度について [ご意見より]

- ・各年代共通で修善寺駅周辺に活気がなく、さみしいという印象を持っている。また、修善寺駅周辺の渋滞緩和策や修善寺道路の無料化など道路・公共交通の整備が課題であるという認識を持っている。

- ・20～50歳代という子育て世代においては、子育て支援サービスや教育環境の充実といったニーズが高く、それに伴う地域コミュニティや愛郷心の醸成も大切だという認識を持っている。

- ・40歳以上という世代においては、市に働く場所がなければ若い世代が伊豆市に住みたいと思わなくなるのではという心配をしており、企業誘致・留置や雇用創出に向けた取組みが必要という認識を持っている。

## 9. 施策に対する満足度・重要度について [地区別]

### [修善寺地区の特徴]

- ・生活環境について、一番住み良いと感じる人が4地区の中で最も多い。

- ・「働く場がある」、「通勤通学の利便性」、「地域の企業が元気」、「娯楽施設が多い」という

印象が低い。

・「人口が減っている」と実感している人は、4 地区の中で最も少ない。

機能的で魅力あるネットワーク型コンパクトタウンの形成に向けた「④道路・公共交通の整備」、産業力の強化に向けた「⑮地域産業を担う人材の育成・確保」、「⑯企業誘致・留置の推進」などが重要だと考えられている。

[中伊豆地区の特徴]

・「住み続けたい」と感じている人が4 地区の中で最も多い。

・「働く場がある」、「通勤・通学の利便性」、「文化・芸術にふれる機会」、「地域の企業が元気」という印象が低い。

・「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなった」と感じる人が4 地区の中で最も多い。  
産業力の強化全般、個性的な市民文化の創造と情報発信に向けた「⑳まちのブランド化の推進」、「㉑戦略的なシティプロモーション」、少子化対策と次代を担う人材育成に向けた「㉒教育環境の充実」などが重要だと考えられている。

[天城湯ケ島地区の特徴]

・「地域に愛着を感じている」人が4 地区の中では最も多い。

・「働く場がある」、「通勤通学の利便性」、「文化・芸術にふれる機会」、「教育環境が良い」という印象が低い。

・「妊娠・出産、子育てへの支援」に対する要望が4 地区の中では最も多い。

機能的で魅力あるネットワーク型コンパクトタウンの形成に向けた「③適切な公共施設の設置」、「④道路・公共交通の整備」、少子化対策と次代を担う人材育成全般などが重要だと考えられている。

[土肥地区の特徴]

・「住み続けたい」と感じる人が4 地区の中では最も少ない。

・「人口減少が進んだ場合、将来に不安を感じる」と感じている人が4 地区の中では最も多い。

・「空き家・空き店舗が増えた」、「活気がなくなった」と感じている人が4 地区の中では最も多い。

安全で心地よい生活環境づくりに向けた「⑥地域医療・消防・救急体制の確保」、産業力の強化全般、少子化対策と次代を担う人材育成全般などが重要だと考えられている。

## ②子育てママスタッフ意見聴取

○対象者

子育てママスタッフ 10～15 人程度

○スケジュール等

第1回 7月11日(火) 10:30～ 生きいきプラザ2階和室

- 第 2 回 8 月 23 日 (水) 10 : 30 ~ 生きいきプラザ健診ホール
- 第 3 回 9 月 27 日 (水) 9 : 30 ~ 生きいきプラザ 1 階和室
- 第 4 回 10 月 30 日 (月) 10 : 00 ~ さくらこども園
- 第 5 回 11 月 14 日 (火) 11 : 00 ~ 生きいきプラザ 1 階和室

#### ○内容

- 第 1 回 : 駅前商店街活性化事業計画に関する意見交換  
修善寺橋通り商店街の作成した資料を基に、修善寺駅周辺がどのようになれば子育て世代が利用するのか意見交換を実施。
- 第 2 回 : 総合計画(子育て関連施策)について意見交換  
市の子育て関連施策や地域拠点づくりについての意見交換を実施。
- 第 3 回 : 総合計画 (子育て世代の居場所づくり) に向けて意見交換  
第 2 回で意見のあった子育て世代が「気軽に集まれる居場所づくり」を目指し、アイデア出しを実施。また、第 2 回で意見交換した子育て関連施策に対し、他市との子育て施策の比較を実施。
- 第 4 回 : 総合計画・拠点づくり (居場所づくりに向けてワークショップ①)  
居場所づくりに活用したいと要望のあったさくらこども園を今後拠点として活用していく上で、母親目線で気になることを確認し、意見交換を実施。また、今後さくらこども園を活用してどういったことを行っていけるかの意見交換を実施。
- 第 5 回 : 総合計画・拠点づくり (居場所づくりに向けてワークショップ②)  
第 4 回でいただいた意見等のフィードバック及びできることからまずやってみるための意見交換を実施。また、施設を活用する上でのルール決めを実施し、今後半年間、試験的運用を開始することとなった。

### ③若手職員研修

#### ○対象者

採用 2 ~ 5 年度の職員 35 人程度 (平成 25 年 ~ 28 年度採用職員)

#### ○スケジュール等

- 第 1 回 8 月 24 日 (木) 15 : 00 ~ 別館大会議室
- 第 2 回 9 月 14 日 (木) 15 : 00 ~ 別館大会議室
- 第 3 回 9 月 28 日 (木) 15 : 00 ~ 別館大会議室

#### ○研修内容

研修のテーマ「新しい伊豆市に必要なもの」

- 第1回：現状を把握し、伊豆市の魅力づくりのアイデアを意見交換する  
市の現状や総合計画・総合戦略の概要を説明した後、グループに分かれ、市の魅力づくりに向けたアイデアについて意見交換を実施
- 第2回：第1回で意見交換した内容を具体的な施策として立案する  
意見交換した内容を基に具体的な施策立案に向けたワーキングを実施
- 第3回：各グループの施策提案を行う  
市長、副市長等出席のもと、各グループの施策提案(発表会)を実施
- A班：「情報発信から築く“自慢できる伊豆市”“選ばれる伊豆市”へ」  
B班：「西口わいわい大作戦」  
C班：「伊豆市のゴールドラッシュ ～磨けば光る、原石（ブランド）大発掘～」  
D班：「外国人に優しくなろう！ Let have an open mind for everyone！  
= Making Izu City International」  
E班：「伊豆市の玄関口 ～修善寺駅 REBORN プロジェクト～」

○その他

プレスリリース（静岡新聞、伊豆日日新聞）の実施

**④伊豆総合高等学校生徒との意見交換**

○対象者

伊豆総合高等学校生徒会 21名（学校推薦による）

○スケジュール等

第1回 10月 5日（木）16：00～ 伊豆総合高等学校 会議室

第2回 10月 19日（木）16：00～ 伊豆総合高等学校 会議室

第3回 10月 31日（火）16：00～ 伊豆総合高等学校 会議室

○意見交換内容

意見交換のテーマ「高校生にとって魅力ある伊豆市にするためには」

第1回：「伊豆市の現状及び総合計画の概要について」

説明後に、人口減少、地域活性化、通学に利用する修善寺駅周辺に関する感想や意見交換を実施

第2回：「高校生の現状や伊豆市全体に関する意見交換」

「修善寺駅周辺をテーマに賑わいづくりについての意見交換」

第3回：「高校生である自分たちが、まちづくりにおいて取り組んでみたいこと」

1班：「伊豆総合高等学校部活出張PRチーム」

2班：「修善寺駅デコレーションチーム」

3班：「修善寺駅イベント出店・中高合同文化祭チーム」

○その他

プレスリリース（静岡新聞、伊豆日日新聞）の実施

〈今後の予定〉

①中学生との意見交換（各学校での事前レク及び12/2（土））

②有識者ヒアリング